

1 県民参加による自然環境保全対策の実施

広大な丹沢大山において、自然環境保全対策を効率的に実施していくためには、県民の自発的な協力が必要です。

そこで、自然環境保全対策について、広く県民の理解を得るとともに、ボランティアと連携して森林保全対策、ゴミ対策、動植物の生息・生育状況調査等を実施したり、神奈川県自然公園指導員の活動を強化するなど、県民参加による生物多様性の保全をめざした取組みを推進します。

《県民参加による保全対策の取組みのイメージ》

○ 県民参加システムの構築

- ・ ボランティア参加メニューの作成（現段階のボランティア参加事業：丹沢産ブナの種子採取・育成・植樹、モミ、ウラジロモミ等への防護ネットの設置、森林衰退域における植樹、動植物の生息・生育状況の調査及びゴミ対策）
- ・ 自然環境保全対策に参加するボランティア（団体・個人）の登録
- ・ ボランティア参加事業に係る企画立案の段階からの打合せ会議の開催
- ・ 丹沢大山周辺でのボランティア拠点施設の整備
- ・ 行政からの情報提供の充実
- ・ ボランティアから動植物の生息・生育状況等の情報を収集するシステムの確立
- ・ ボランティア間のネットワークづくり

○ 環境学習の充実

- ・ 環境学習の場の提供
- ・ 学校教育における環境学習の推進
- ・ かながわ環境学習プランの推進
- ・ ビジターセンター利用の推進

○ 自然公園指導員の活動の強化

- ・ 研修の充実等による人材の育成
- ・ 行政からの情報提供の充実

2 国及び他の自治体との連携

(1) 国との連携

国有林を管理する森林管理署や、緑の回廊構想の所管庁である環境庁、林野庁、建設

省及び国土庁と連携して、多様な構造を持つ森林づくりや、大型動物の他山地との遺伝的な交流を推進します。

(2) 市町村等との連携

森林保全対策、丹沢山地の放置ゴミの対策、緑の回廊構想の推進等は、広域的な取り組みが必要であり、関係する市町村や県と連携して、具体的な施策を実行します。

《国、市町村等との連携のイメージ》

- ・ 環境庁や森林管理署との定期的な意見交換
- ・ 関係自治体との定期的な意見交換
- ・ 丹沢自治体会議の開催
- ・ 各種対策、イベント、調査等の共同実施

3 庁内の推進体制

丹沢大山の自然環境保全の推進にあたっては、「かながわ新みどり計画推進会議」及びその下に設置されている「丹沢大山自然環境保全対策推進会議」が、計画の進捗状況の把握や計画を実行していく上で必要な調整等を行います。

4 計画の見直し

丹沢大山の自然環境の状況等の変化に対応するため、必要に応じて本計画の見直しを行います。見直しの時期は、「かながわ新総合計画21」との整合を図ります。